令和8年度　全国学力・学習状況調査」赤磐市の状況

令和8年8月　赤磐市教育委員会

令和8年4月23日(木)に、全国学力・学習状況調査が実施されました。(結果の通知は7月中旬に行われました)赤磐市の結果とその分析、今後の取り組みの方向性についてお知らせします。

〈調査の目的〉
・全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
〈調査の内容〉
・教科については、国語・算数・数学・英語の3教科を実施
・学習指導要領に示された目標や内容に基づき、調査対象の前学年までの内容が出題
・学習意欲・学習方法・学習環境等に関する質問調査
・学校に対する質問調査
〈調査対象〉
・対象者は、小学校6年生、中学校3年生
（赤磐市内:小学校6年生　約380名、中学校3年生　約350名）



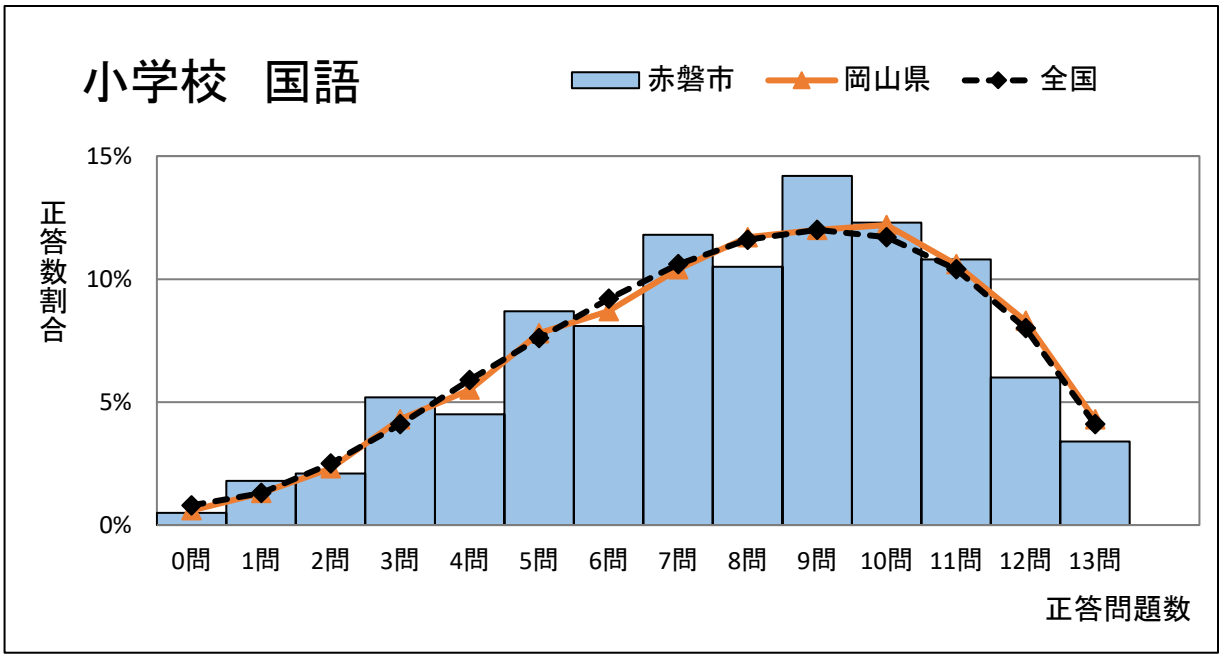
上の図は「赤磐市教育委員会学校教育課重点モデル」です。幼児教育から中学校まで途切れることのない学びの接続、子どもがもっている力を進んで発揮できるための安心ある環境づくり、個に応じた支援や誰一人取り残さない学びの促進。これらを充実させることが、学力の向上や自立に向かおうとする姿につながると考えています。

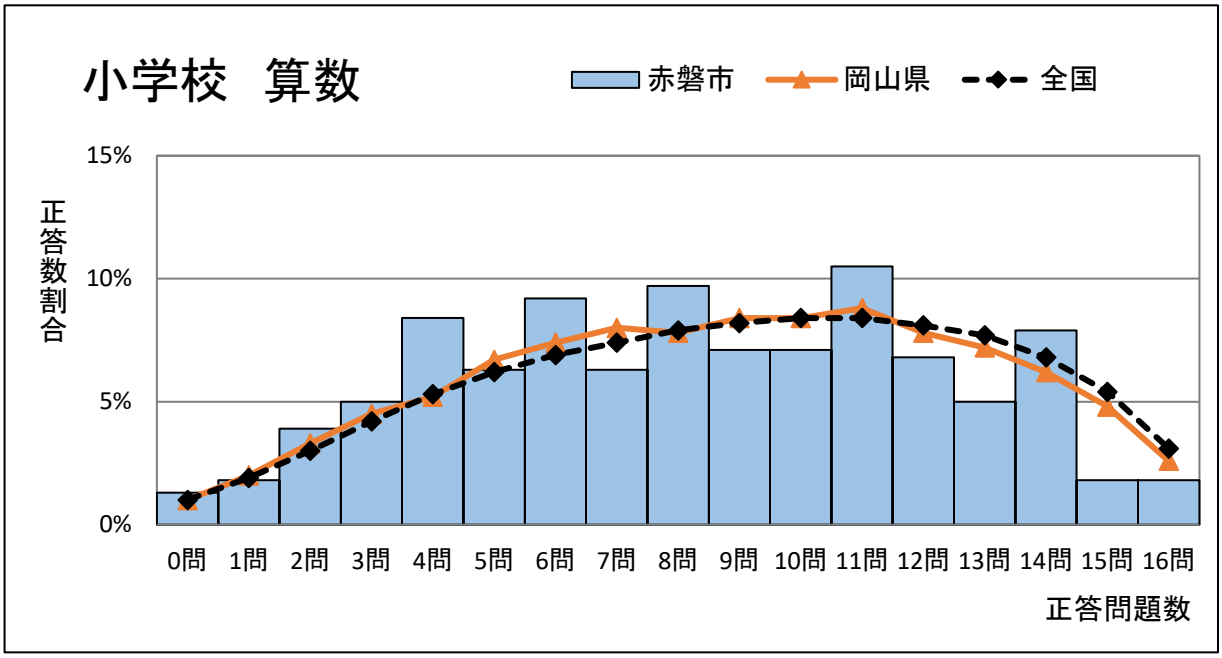
そこで本調査では、「赤磐市教育委員会学校教育課重点モデル」とも関連させながら考察を行っていきます。

赤磐市　全国学力・学習状況調査の結果

小学校６年生の学力調査結果から

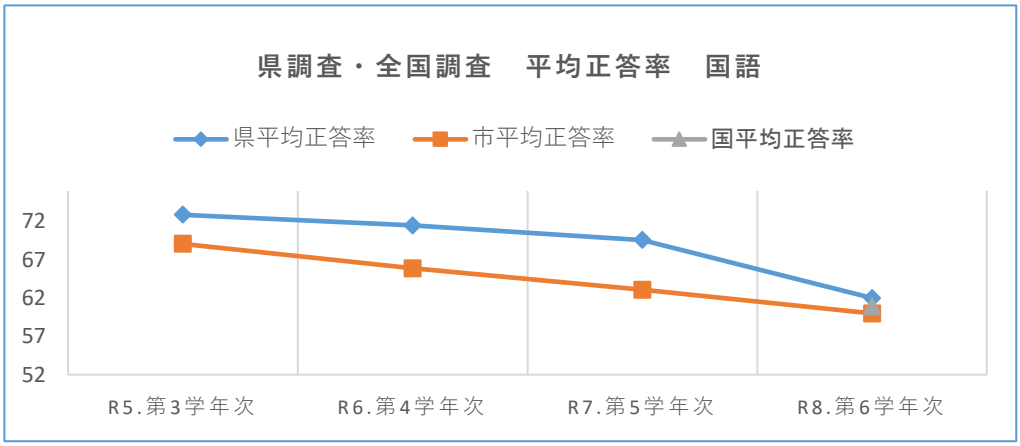
【グラフの見方】
横軸→正答問題数
縦軸→児童生徒の正答数の割合
を示しています。



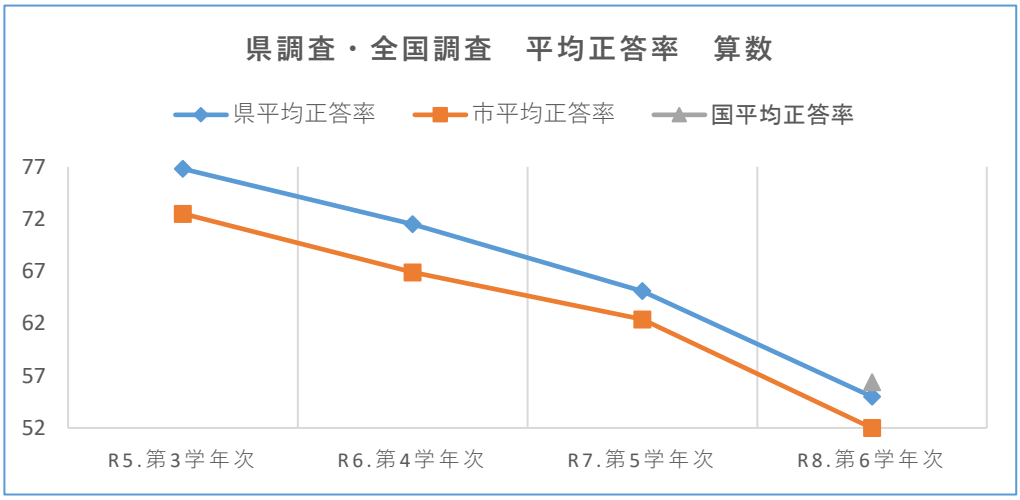


同一集団による経年比較により、改善と課題を明確に

令和8年度6年生における、3年次からの経年変化を岡山県の平均正答率と比較したものです。3年生から5年生までの平均正答率は「岡山県学力・学習状況調査」、6年生の平均正答率は「全国学力・学習状況調査」をそれぞれ用いています。



2021年度入学　（令和8年度6年生）				
国語	R5.第3学年次	R6.第4学年次	R7.第5学年次	R8.第6学年次
県平均正答率	72.9	71.5	69.6	62
市平均正答率	69.1	65.9	63.1	60
全国平均正答率				60.9



2021年度入学　（令和8年度6年生）				
算数	R5.第3学年次	R6.第4学年次	R7.第5学年次	R8.第6学年次
県平均正答率	76.8	71.5	65.1	55
市平均正答率	72.5	66.9	62.4	52
全国平均正答率				56.4

学力調査結果【小学校】

国語の概況

・平均正答率は60%であり、全国（60.9%）および岡山県（62%）をわずかに下回っている。

・県との平均正答率の差は3年～5年次と広がっていた（最大６.５ポイント）が、6年次で２ポイントまで縮まっている。

国語の改善点（〇）と課題点（▲）

〇「話すこと・聞くこと」（67.4%）や「読むこと」（65.6%）は全国（それぞれ65.8%、65.9%）と同等かそれ以上である。

▲「書くこと」の正答率（42.4%）に関しては全国（45.7%）や県（45.6%）と比べて低い。

国語の結果に対する考察と授業改善等のポイント

・児童質問紙「国語の授業で、先生は、あなたの良いところや、前よりもできるようになったところはどこかを伝えてくれますか。」という項目では、県より肯定的な割合が1.5ポイント高かった。「先生は、国語の授業であなたのうまくできていないところを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてくれましたか。」という項目では、県より3.1ポイント高かった。

・正答率の差が改善された要因の１つとして、上記のような児童に対する丁寧なフィードバック、児童の学びを適切に見取るための工夫など、学習者主体の授業への意識の高まりがあると考える。

・「書くこと」については、具体的に「筋道の通った文章となるように文章全体の構成や展開を考えること」「自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること」に関して県や全国より３ポイントほど低かった。

・説明文や作文など、書く活動を授業で取り入れるだけでなく、できあがった文章をもう一度見返したり、推敲したり活動も充実させることで改善を図ることが考えられる。また、児童質問紙「国語の授業で、文章を引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書いていましたか。」という項目で、肯定的な割合が県や全国と比べて5%ほど低かった。正答率と児童自身の感覚が一致していることからも、意図的に多様な学習活動を設定する必要性があると考える。

学力調査結果【小学校】

算数の概況

・平均正答率は52%であり、全国（56.4%）および岡山県（55%）を３～４ポイント下回っている。

・県との平均正答率の差は３年～６年次までで大きな変化は見られない。

算数の改善点（〇）と課題点（▲）

〇領域ごとに見ると、「測定」は県平均との差が-1.8ポイントで一番差が小さかった。具体的には「示された情報を基に、数量関係に着目して、条件に合うように答えを求めること」について正答率が74.3%（県76.1%）であった。

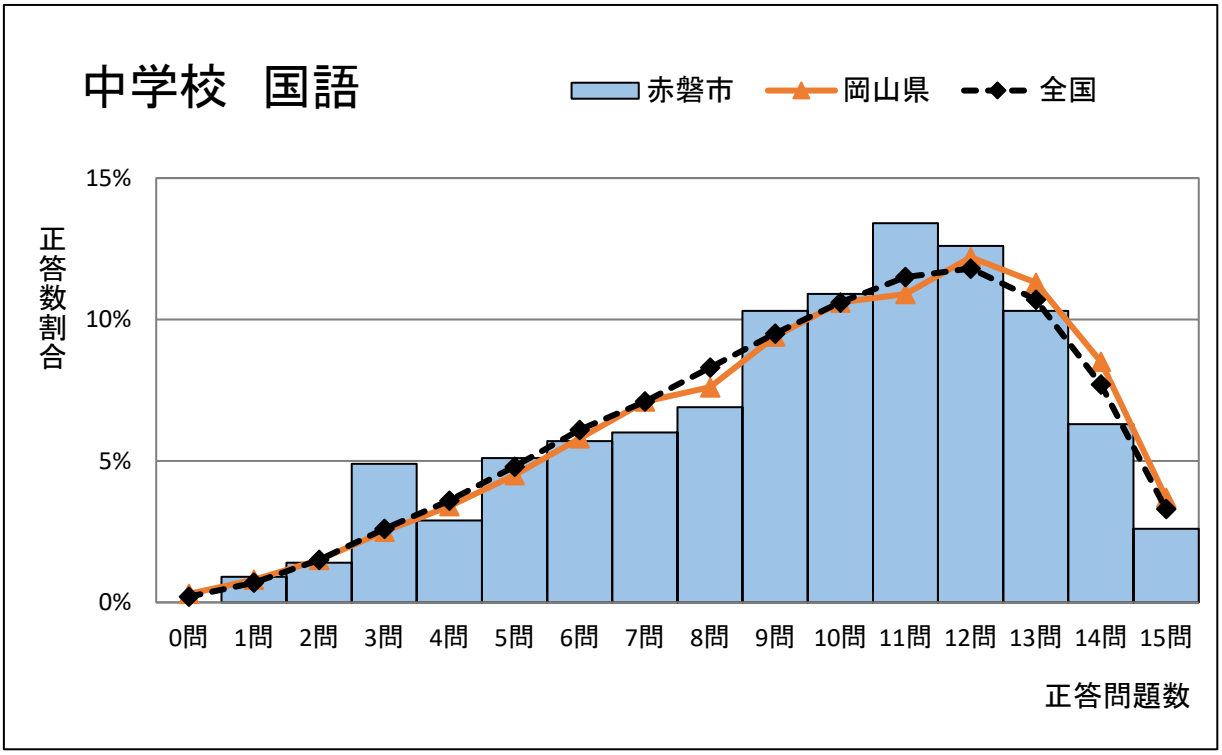
▲「数と計算」は県平均との差が-3.6ポイントで一番差が大きかった。また、無解答率が3.5%で、県2.8%、全国3.2%と比べても、自分の考えをもち、それを表現できていないことが分かる。

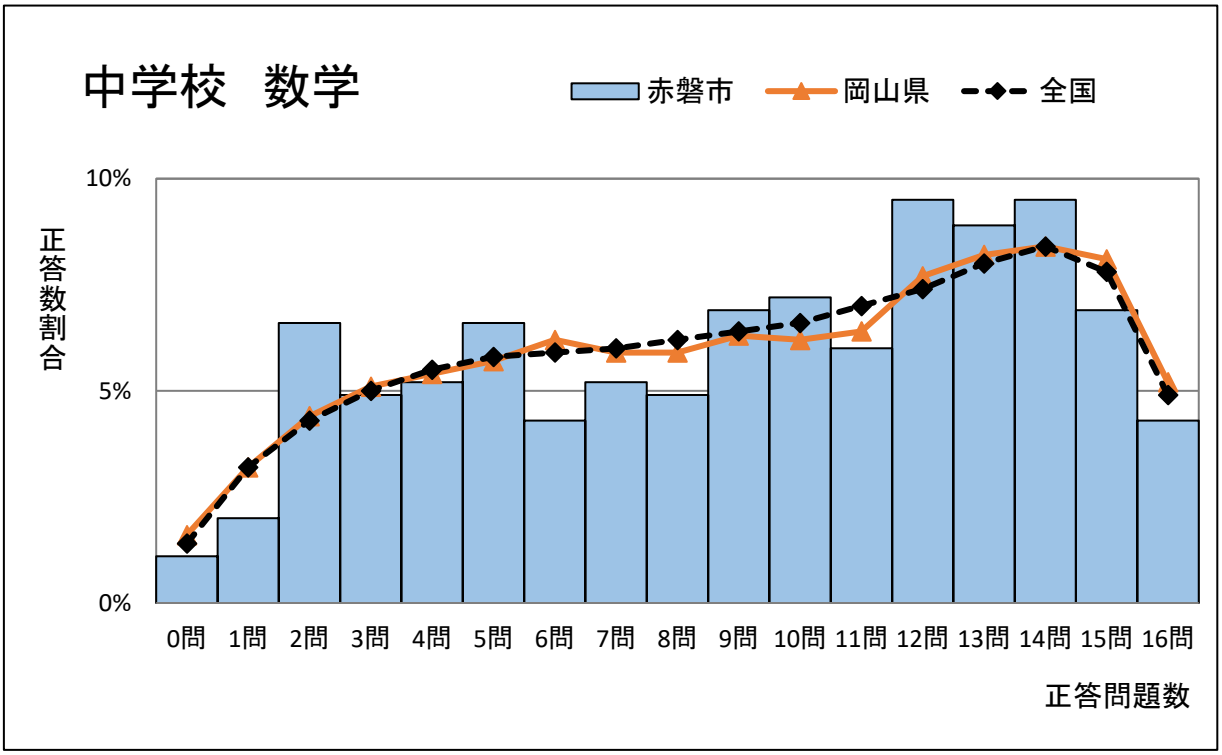
算数の結果に対する考察と授業改善等のポイント

・児童質問紙「5年生までに受けた授業では、算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えましたか」の項目では、肯定的な割合が78.4%で県（80.3%）や全国（81.7%）と比べて低い。この結果と無解答率の高さに関係があると考えられる。授業改善に向けて、１つの方法だけでなく複数の方法で解決していく活動を設定することで、問題解決の際の考え方を広げることができると考える。

・児童質問紙「5年生までに受けた授業では、図形や数直線など図が示された問題では、問題を解くときに図が役に立つと思いましたか」の項目では、肯定的な割合が86.9%で県（89.3%）や全国（88.3%）と比べて低い。つまり図に表すことの良さを感じられていないということである。情報量が多かったり複雑だったりする問題では、図に表すことで問われていることが明確になったり解決の筋道が見えてきたりするはずである。それを児童自身が体験的に学べるような授業改善も必要であると考える。

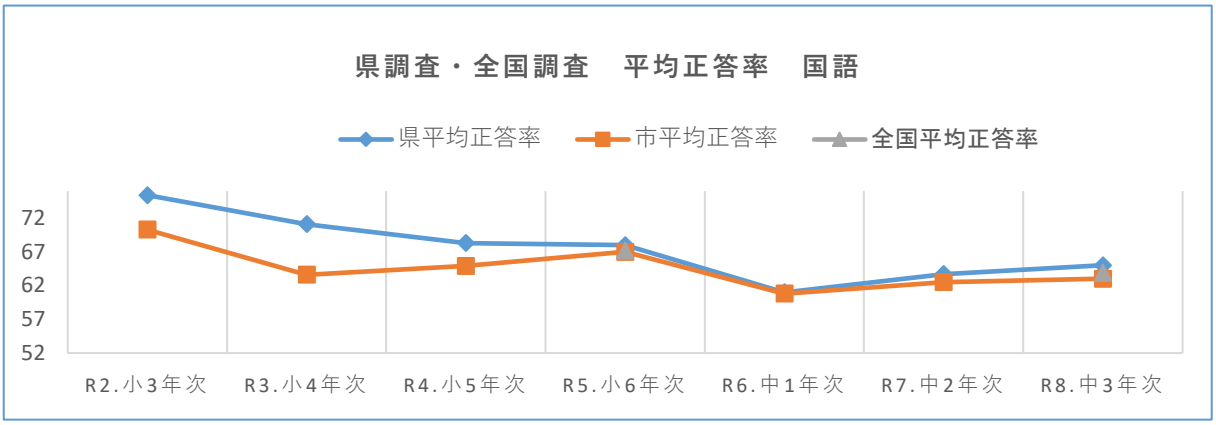
中学校３年生の学力調査結果から



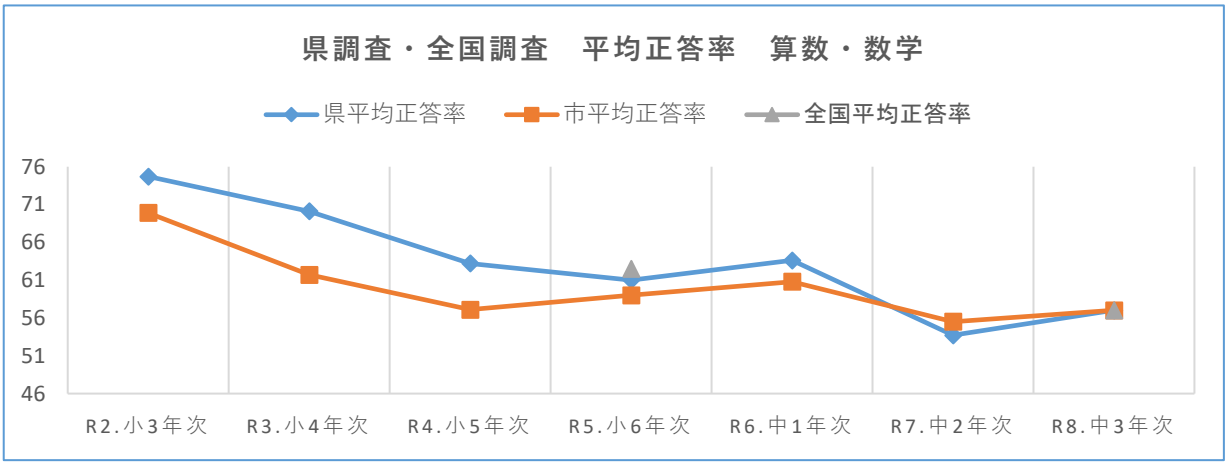


同一集団による経年比較により、改善と課題を明確に

令和8年度中学3年生の小学3年次からの経年変化を岡山県の平均正答率と比較したものです。3年生から5年生、中1、中2の平均正答率は「岡山県学力・学習状況調査」、6年生、中学3年生の平均正答率は「全国学力・学習状況調査」をそれぞれ用いています。



2018年度入学　令和8年度中学３年生							
国語	R2.小3年次	R3.小4年次	R4.小5年次	R5.小6年次	R6.中1年次	R7.中2年次	R8.中3年次
県平均正答率	75.4	71.1	68.3	68	61	63.7	65
市平均正答率	70.3	63.6	64.9	67	60.8	62.5	63
全国平均正答率				67.2			63.9



2018年度入学　令和8年度中学３年生							
算数・数学	R2.小3年次	R3.小4年次	R4.小5年次	R5.小6年次	R6.中1年次	R7.中2年次	R8.中3年次
県平均正答率	74.7	70.1	63.2	61	63.6	53.7	57
市平均正答率	69.9	61.7	57.1	59	60.8	55.5	57
全国平均正答率				62.5			57

学力調査結果【中学校】

国語の概況

・平均正答率は63%で、県平均は65%、全国平均は63.9%であった。全国の平均と比べると、差はほとんど見られなかった。

・小４年次に県平均との差が7ポイント以上あったが、小６～中３次に関しては差がほとんど見られない。

国語の改善点（〇）と課題点（▲）

〇「情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使うこと」に関する問題では、正答率が70.6%であり、県（69.5%）や全国（70.4%）と比べて上回っている。

▲「読むこと」の正答率（58.1%）に関しては全国（59.7%）や県（61.0%）と比べて低い。

国語の結果に対する考察と授業改善等のポイント

・領域ごとに平均正答率に県や全国と差が見られないことから、バランスよく資質能力が身に付いてきている様子を見て取ることができる。特に、小学校中学年段階と比較すると、平均正答率が徐々に県平均に近づいており、学校での授業改善の成果を見て取ることができる。

・基礎的な力は定着しているが、「目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈すること」や「文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉えること」など、複数の情報を組み合わせて適切に判断することに関しては課題が見られる。これまで情報を焦点化することで、だれもが分かる・できるを味わえる授業展開を大事にしてきた。その部分は継承しながらも、生徒の実態に応じて情報や条件など課題を複雑化していくことで、より実生活と近い問題解決的な能力を育てられると考える。

・記述式の問題の無解答率が県や全国と比べて高くなっている。（市平均：17.1%、県：15.5%、全国：14.7%）授業の中で、自分の考えを文章にまとめる活動に加えて、文字数や段落構成、引用など複数の条件設定を行い、より論理的な構成になるような授業展開にしたり、生徒自身がそれを自覚したりできるような工夫が必要だと考える。

学力調査結果【中学校】

数学の概況

・平均正答率は57%で、県・全国と同じ割合である。

・小４年次に県平均との差が８ポイント以上あったが、小６～中３次に関しては差がほとんど見られない。

数学の改善点（〇）と課題点（▲）

〇「数と式」の領域では正答率が68.1%（県：67.7%、全国：67.8%）、「図形」では49.3%（県：47.9%、全国：48.7%）、「関数」では55.7%（県：55.6%、全国：54.8%）となっており、学力の定着の様子がうかがわれる。

▲「データの活用」の領域に関しては正答率が53.7%で、全国（53.5%）は上回っているが、県（54.4%）よりも低い。

数学の結果に対する考察と授業改善等のポイント

・小学校中学年以降、徐々に全国や県との差が縮まっており、授業改善の成果を見取ることができる。

・生徒質問紙「数学で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の項目では、肯定的な割合が84.7%で県（79.4%）や全国（76.5%）と比べてかなり高い。また「数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できていましたか」の項目に関しても72.2%で、県（65.8%）や全国（63.0%）と比べて高くなっている。これらは、数学の問題と実生活での問題とを関連付けたり、課題に対して当事者意識をもたせたりするなどの授業の工夫によって得られた結果と考える。

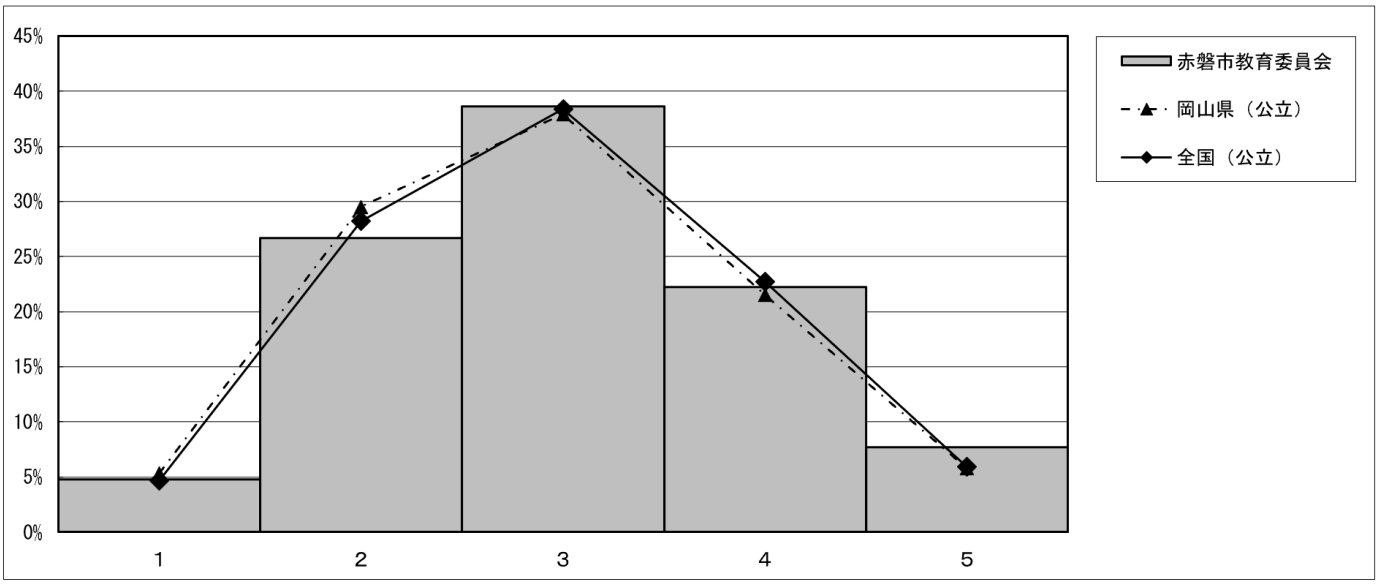
・「データの活用」では具体的に、図を利用して確率を求めることや累積度数の意味理解、度数分布多角形の特徴を基にした説明に関して課題が見られた。これらは知識として知っていたり公式に当てはめたりすれば解決できるものではなく、概念の理解やそれを総合的に発揮する必要がある。よって単に知識だけを問うのではなく、これまで同様、根拠を明確にしながら筋道立てて自分の考えを説明するような活動を充実させたり、それを生徒自身が自覚したりできるような授業の工夫が必要である。

令和8年度　中学校3年生英語（3技能）の結果

英語については、昨年度まで「標準スコア」を用いた調査を行っていましたが、今年度から「IRT（項目反応理論）」を用いた調査を行っていますので、同一集団での経年変化を示すことができません。そこで今年度の結果のみをお示しします。

中学3年生英語　IRTバンド

〈IRTバンドについて〉
下グラフの横軸はバンドを示しています。3を基準として、5が最も高いバンドです。バンドは難易度の高い問題に正答していると高めに、難易度の低い問題に誤答していると低めに算出されます。縦軸は生徒の割合を示しています。



英語の概況

バンド5の生徒の割合は、赤磐市が7.7%で、全国（5.9%）や県（5.8%）よりも多い。また平均IRTスコアに関しては、赤磐市は507点で、岡山県（495点）や全国（499点）よりも高い数字である。特に、「読むこと」と「書くこと」に関しては平均正答数が2.7問で、全国や県の2.5問より高い。一方、「聞くこと」に関しては平均正答数が1．1問で、県（1．1問）全国（1．2問）と差はほとんど見られなかった。

英語の結果に関する考察と授業改善等のポイント

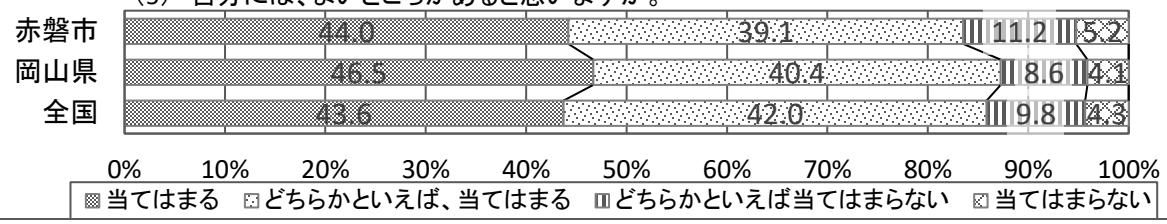
生徒質問紙「生徒同士で英語で問答したり意見を述べあったりする活動が行われていたか」については肯定的割合が約2ポイント、「授業で、英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする活動が行われていたか」については肯定的割合が約4ポイント、県や全国を上回っていた。授業のねらいを踏まえて多様な学習活動を展開・充実させたことが上記の結果に結びついたと考えることができる。

調査問題の「話を聞き、概要を捉えることができるか」「短い文章を読み、概要を捉えることができるか」に関しては、県や全国より5ポイントほど下回っていた。これまでのスモールステップによる丁寧な指導・支援を継続しながらも、話や文章全体の要点や展開を捉える力の育成についても重視した指導へと展開していくことで、より教科の学びと日常生活をリンクさせることができると考える。

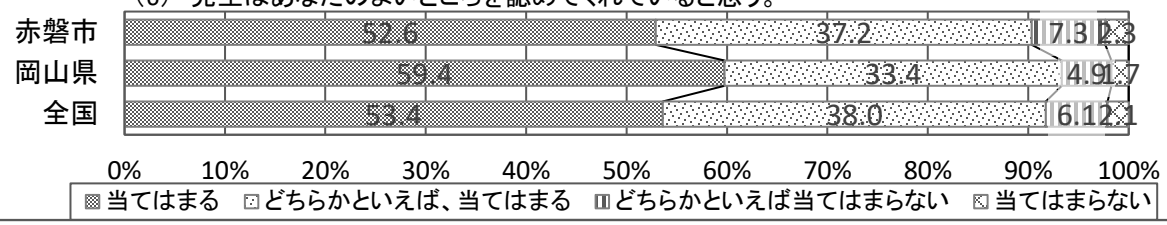
小学校６年生の学習状況調査結果から

学校において「安心」を感じている姿

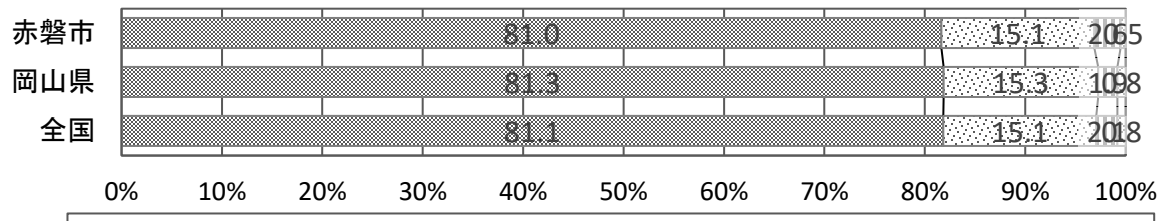
（5） 自分には、よいところがあると思いますか。



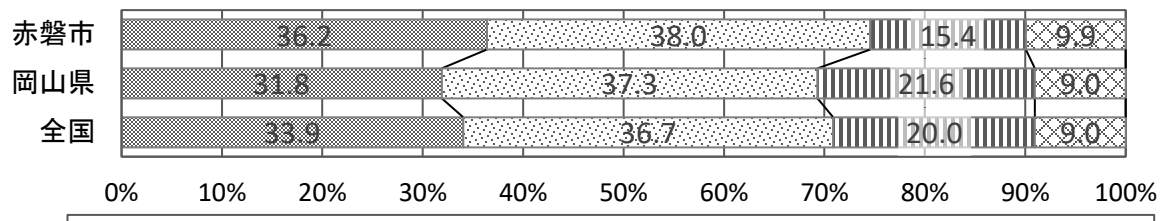
（6） 先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う。



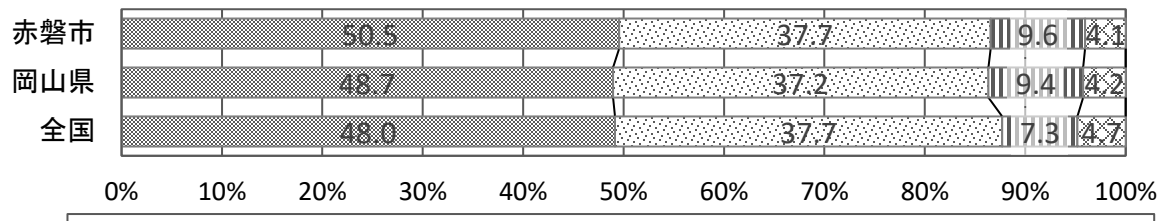
（9） いじめはどんな理由あってもいけないことだと思う。



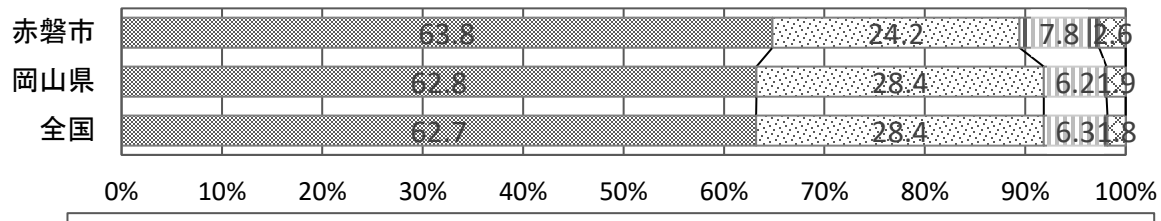
（10） 困りごとや不安がある時に先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。



（12） 学校に行くのは楽しいと思う。



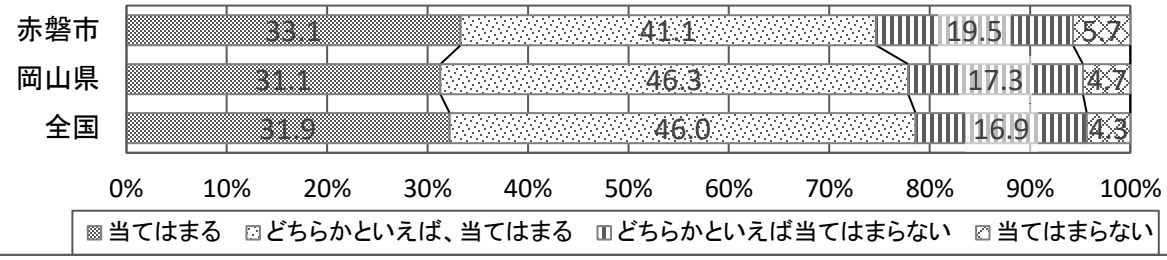
（14） 友達関係に満足している。



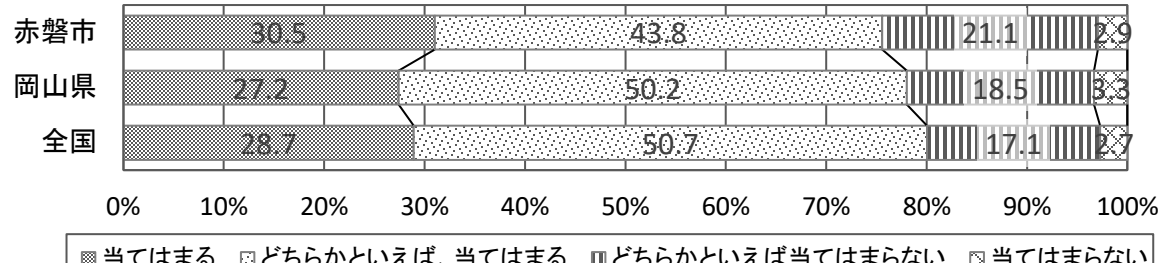
小学校６年生の学習状況調査結果から

自分の力を「発揮」しようとしている姿

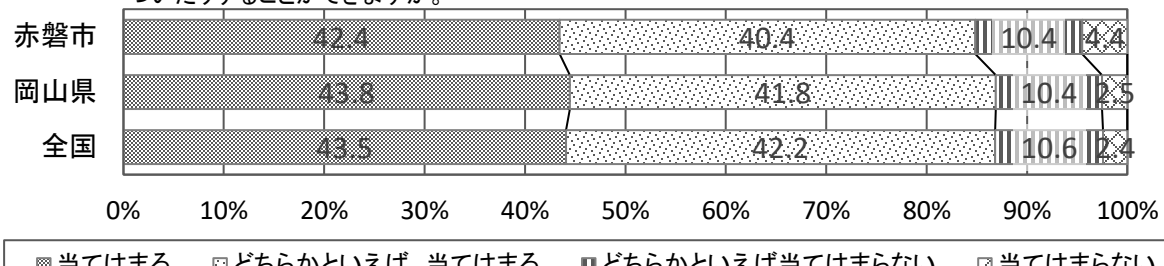
（13） 自分と違う意見について考えるのは楽しい。



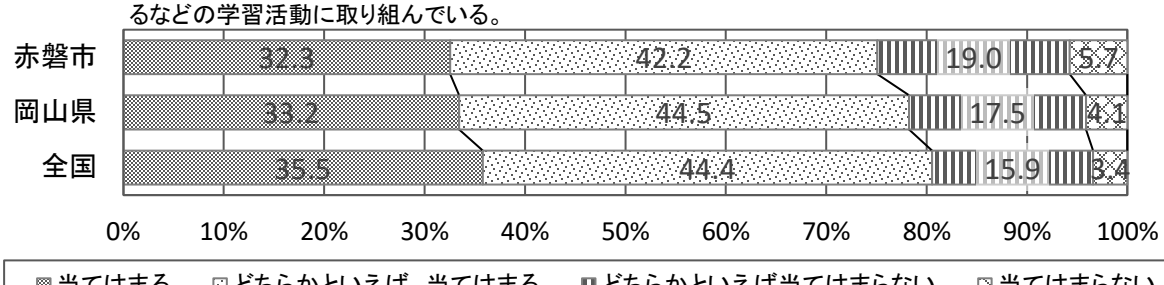
（16） 分からいことやくわしく知りたいことがあったとき、自分で学び方を考え、工夫することができていますか



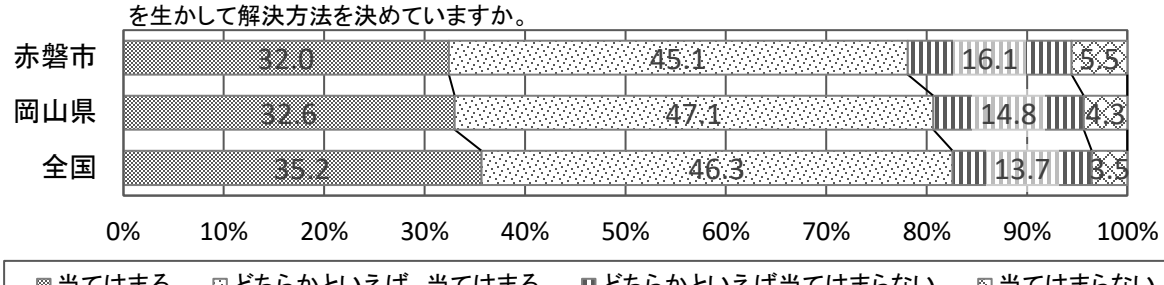
（35） 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができますか。



（40）総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。



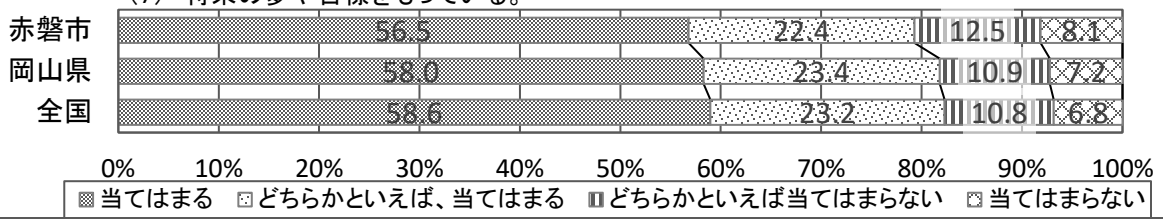
（41）あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。



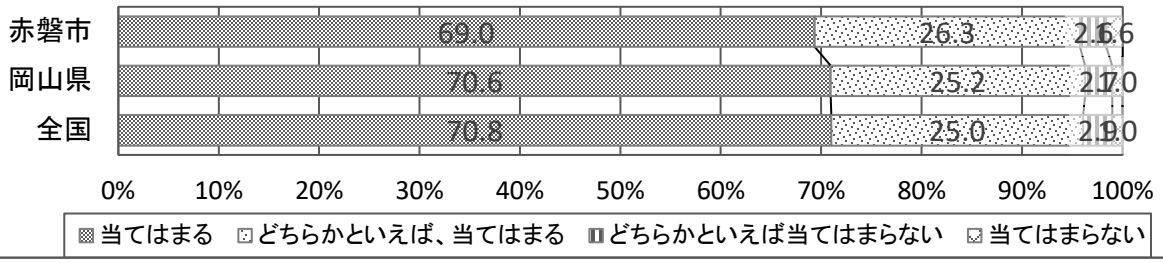
小学校６年生の学習状況調査結果から

「自立」に向かう姿

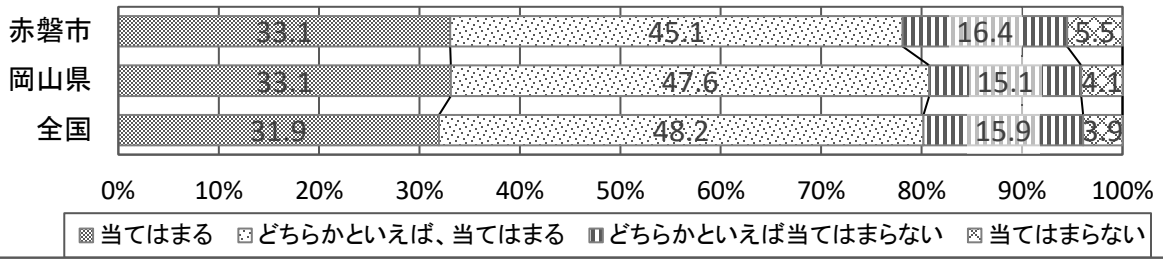
（7） 将来の夢や目標をもっている。



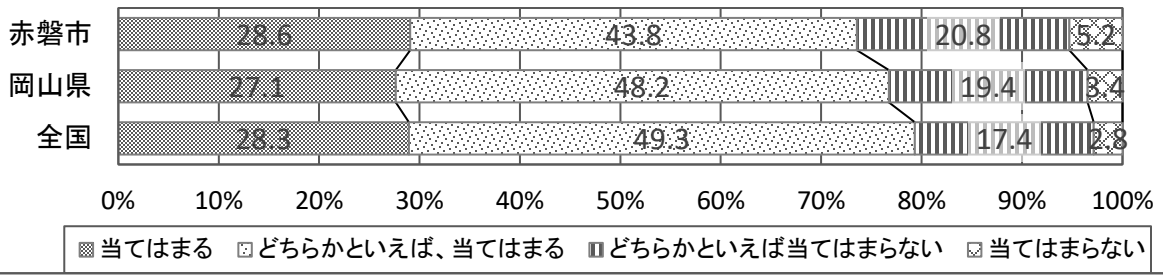
（11） 人の役に立つ人間になりたいと思う。



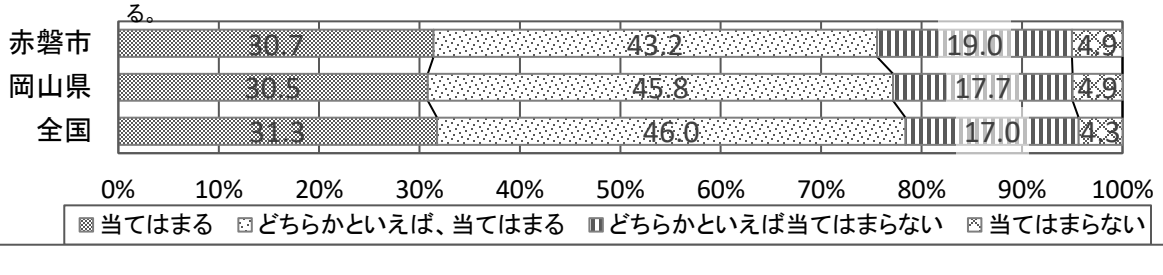
（27） 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。



（32） 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだ。



（42） 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる。



「安心」「発揮」「自立」を育む学校・学級づくり

学習状況調査結果

学校教育課重点にお示しした「安心」「発揮」「自立」のそれぞれの様子について、児童生徒質問調査を通して考察します。

小学校の結果：学校において「安心」を感じている姿

- 「困りごとや不安がある時に先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」という質問に対しての肯定的回答は県や全国を上回った。

- 「自分には、よいところがあると思う」「友達関係に満足している」という質問に対し、肯定的な回答の割合は県や全国と比べ低い状況であった。

小学校の結果：自分の力を「発揮」しようとする姿

- 「自分と違う意見について考えるは楽しい」「分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできている」という質問に対して、最上位回答の割合は県や全国よりも上回っている。

- 「学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている」という質問に対して、肯定的な回答の割合は県や全国と比べて低い。

小学校の結果：「自立」に向かう姿

- 「課題の解決に向けて、自分で考え自分から取り組んだ」「自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる」という質問に対する肯定的な回答の割合が県や全国よりも低い状況にある。

小学校の結果に対する考察

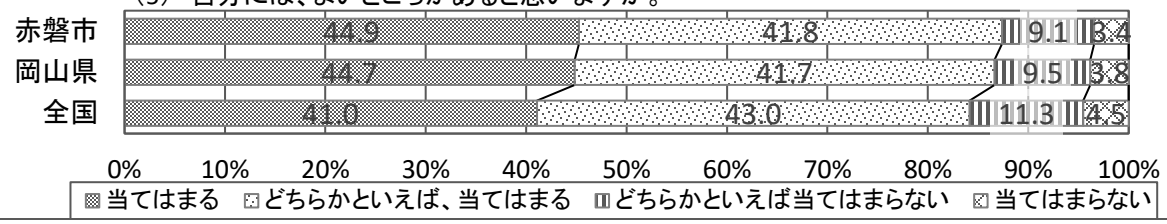
- 「安心」については、県や全国と比べても大きな差はない。児童一人一人のよさを認めたり日々の生活の様子を適切に見取ったりしながら安心できる学校、学級づくりを進めてきた赤磐市の取り組みが少しずつではあるが数値として表れてきたと考える。

- 「自立」については、幼・小・中での子どもの学びの様子を互いの学校園で共有することにより、どの部分が児童の力だけでできるのか、どの部分からは教師の支援が必要なのかが明確になるはずである。引き続き、校種を超えたつながりを大事にしながら、それぞれの校種における自立した姿を目指していく必要がある。

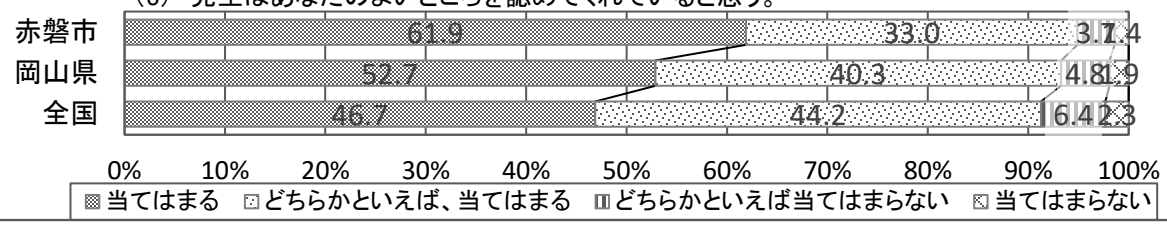
中学校３年生の学習状況調査結果から

学校において「安心」を感じている姿

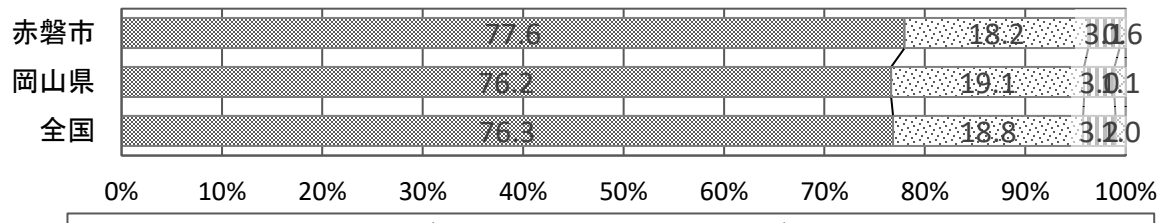
（5） 自分には、よいところがあると思いますか。



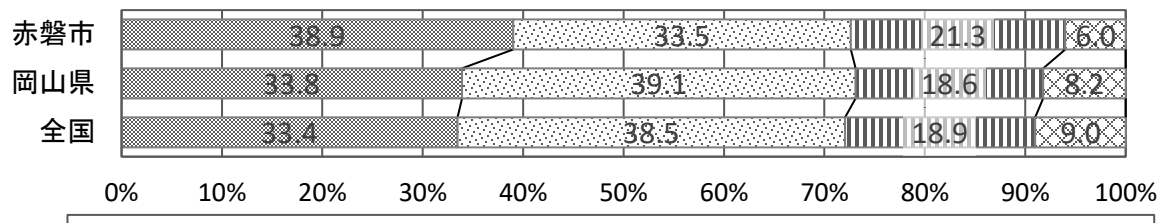
（6） 先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う。



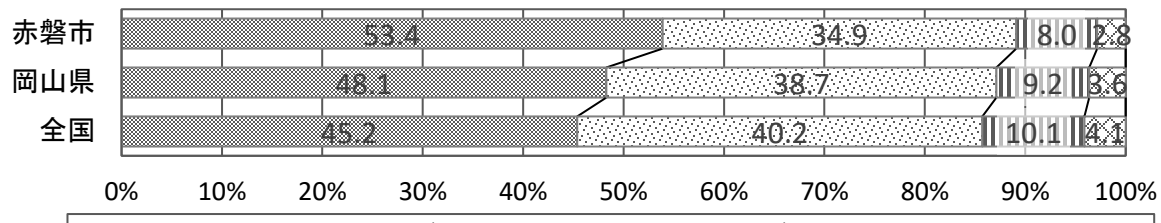
（9） いじめはどんな理由あってもいけないことだと思う。



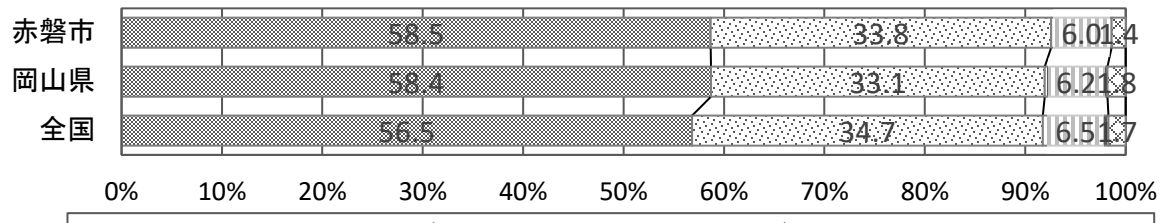
（10） 困りごとや不安がある時に先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。



（12） 学校に行くのは楽しいと思う。



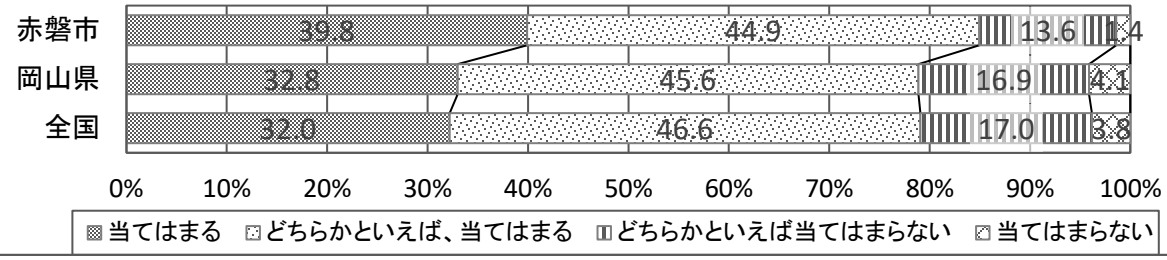
（14） 友達関係に満足している。



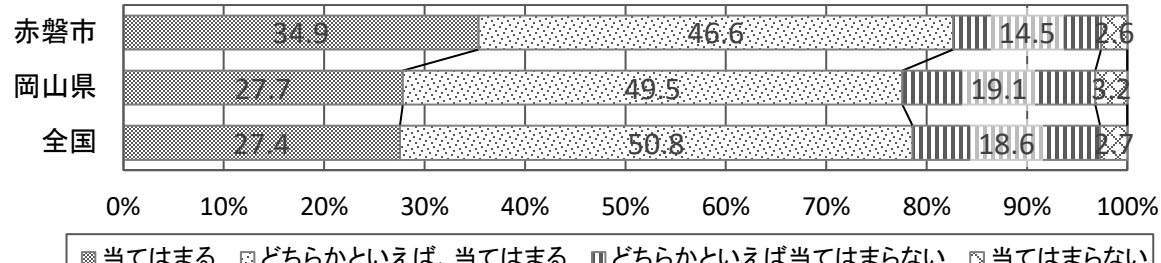
中学校３年生の学習状況調査結果から

自分の力を「発揮」しようとしている姿

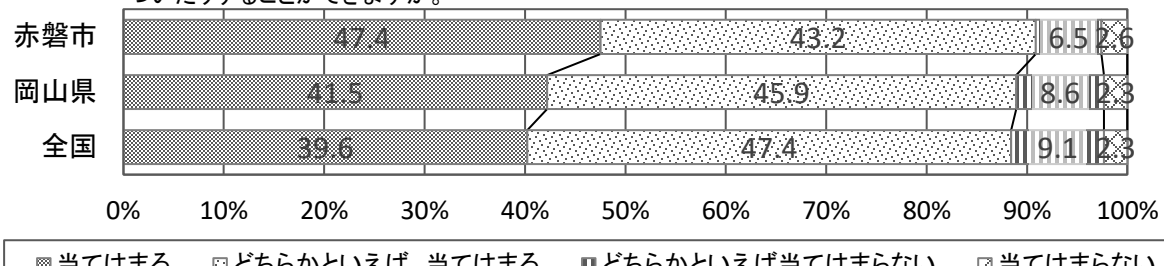
（13） 自分と違う意見について考えるのは楽しい。



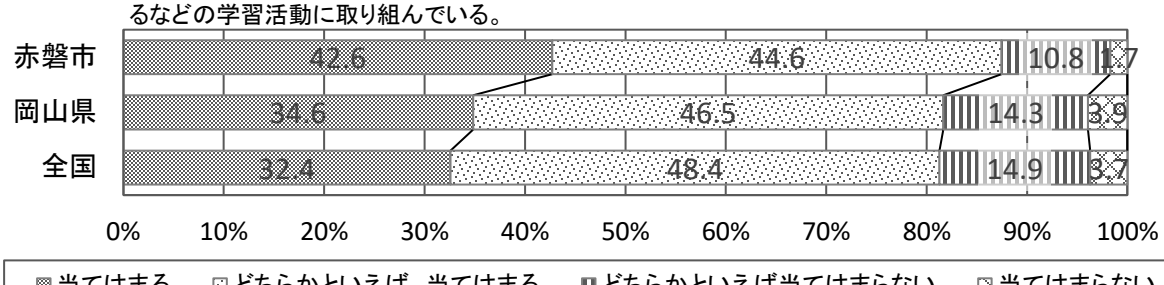
（16） 分からないことやくわしく知りたいことがあったとき、自分で学び方を考え、工夫することができていますか



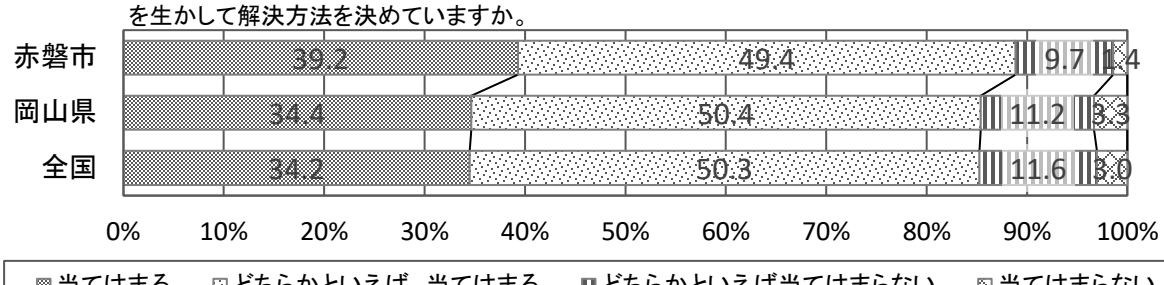
（35） 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができますか。



（40）総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。



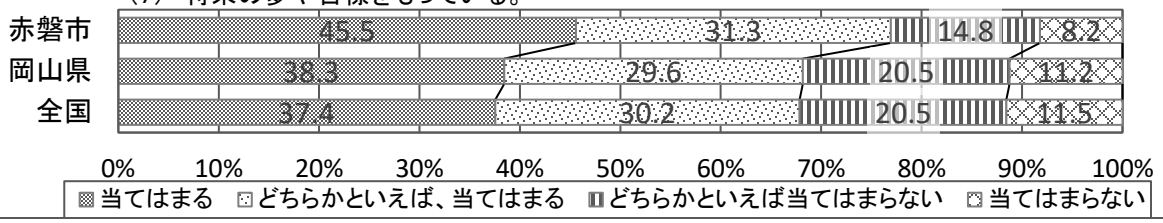
（41）あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。



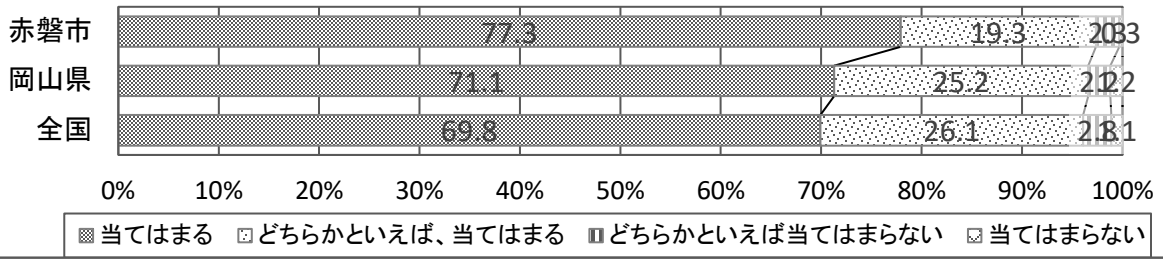
中学校３年生の学習状況調査結果から

「自立」に向かう姿

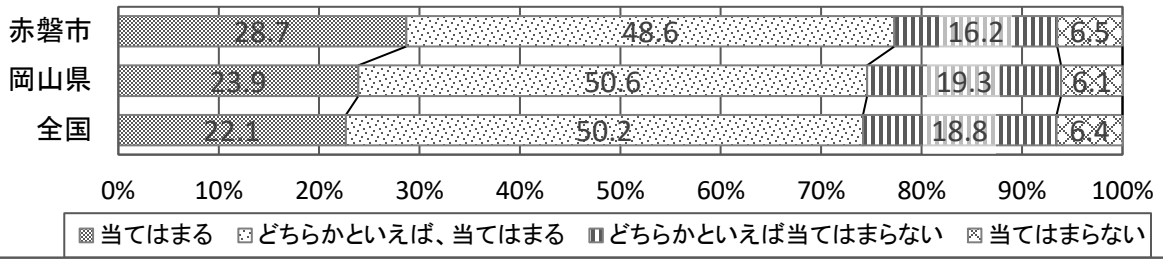
（7） 将来の夢や目標をもっている。



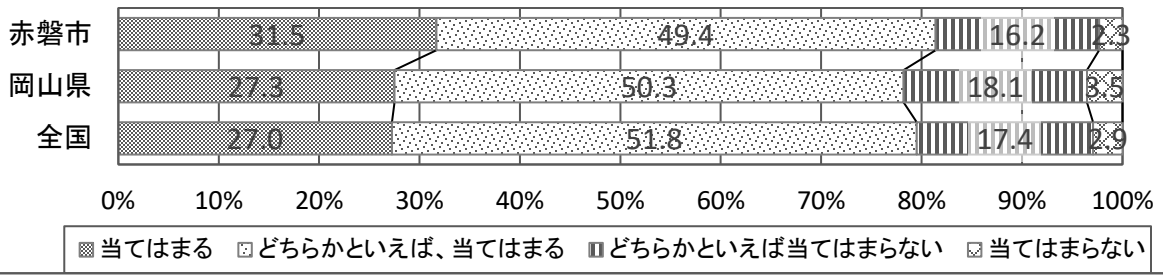
（11） 人の役に立つ人間になりたいと思う。



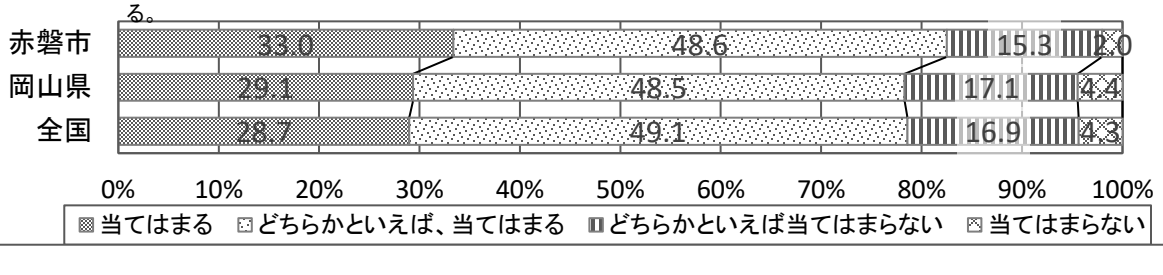
（27） 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。



（32） 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだ。



（42） 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる。



「安心」「発揮」「自立」を育む学校・学級づくり

学習状況調査結果

中学校の結果：学校において「安心」を感じている姿

・ほとんどの項目において、県や全国と比べ肯定的な割合が高くなっている。特に「先生はあなたのよいところを認めてくれている」「困りごとや不安がある時に先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」に関しては、最上位回答の割合が県や全国よりも大きく上回っている。

中学校の結果：自分の力を「発揮」しようとする姿

・「自分と違う意見について考えるのは楽しい」「総合的な学習の時間では、自分で計画を立てて情報を集め整理し、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」の項目については、肯定的な割合が県や全国と比べて５ポイント以上高くなっている。

・「学級の友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができますか」の項目については、県や全国と比べて肯定的な割合は同じ傾向にある。

中学校の結果：「自立」に向かう姿

・「将来の夢や目標をもっている」という質問に対する肯定的な回答の割合は76.8%で、県や全国を10ポイント近く上回っている。その他の項目に関しても、肯定的な割合が県や全国より高くなっている。

中学校の結果に対する考察

・「安心」に関わる質問項目については、昨年度否定的な回答の割合が県や全国と比べて高くなっていることを課題に挙げていたが、今年度は肯定的割合や最上位回答ともに高い数値となっている。幼児期～小学校～中学校と連携しながら「安心できる環境」を目指してきた成果が出ていると考える。これが一過性で終わらないよう継続した取り組みにしたい。

・「発揮」に関わる質問項目については、全ての質問で肯定的な割合が県や全国より高くなっている。これは「自分で学び方を考える」「自分で課題を立てる」「解決方法を決める」のような学習活動を教師が設定し、取り組んだ生徒へ適切なフィードバックを行っているからだと考える。こうして生徒自身が学ぶことの重要性や自信を感じていくことで、「自立」に向かう姿がさらに見られるようになると考える。

児童・生徒質問調査と授業改善　今後に向けて【小中共通】

＜各教科と生活科・総合的な学習の時間の往還＞

昨年度は「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組む」に対しての肯定的な回答割合と、「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む」に対しての肯定的回答割合の差を課題に挙げていたが、今年度の結果を見ると肯定的割合の差が縮まっている。（小：6.2→2.1ポイント、中：9.9→6.3ポイント）これは、生活・総合だけでなく各教科でも探究的な学びを充実させようと学校が創意工夫した成果であると考える。

この力は、幼児教育から積み重なって伸ばしていくものであるからこそ、幼児教育での自発的な活動としての遊びを通した学びを小・中へと円滑に接続させる取り組みの充実を期待する。

＜自立に向けた指導や支援＞

「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに自分で学び方を考え、工夫する」に対する肯定的割合は、小学校の74.3%から中学校では81.5%へと向上している。また、「学級での話し合いを生かして努力すべきことを自分で決めて取り組む」の割合は、小学校73.9%から中学校81.6%へとそれぞれ伸長しており、小学校から中学校へと「自立」や「当事者意識」といった学びの主体が児童生徒へとシフトしていると言える。

ただ一方、小学校においては自立に関するこれらの質問項目において、いずれも全国や県の平均をわずかに下回る状況にある。より児童生徒が学びの主体となるように、数値で測れる結果だけでなく学びの過程も適切に見取ることや、どの部分が児童の力だけでできるのか、どの部分からは先生の支援が必要なのかを明確にし、児童生徒自身が自己選択・自己決定しながら学びを創っていけるような授業へと改善を図っていく必要がある。

＜学びの土台である安心できる居場所づくり＞

「先生がよいところを認めてくれている」「学校が楽しい」「友達関係に満足している」の項目で、90%近くの児童生徒が肯定的回答をしている。これは、学校が児童生徒にとって安心・安全で温かい居場所として機能していると考える。昨年度は、安心感に関わる一部の否定的な回答の割合が課題として挙げていたが、先生方のきめ細かな児童生徒との関わりによって克服し、今年度の改善へと結びつけた意義は大きい。

この、安心ある環境を一過性の数値で終わらせないことが極めて重要である。今後も「幼・小の架け橋プログラム」をはじめとする幼・小・中のスムーズな接続と連携体制をさらに強化し、子どもたちが生涯にわたって安心して学び、力を発揮し続けられる持続可能な支援体制を構築していく必要がある。

教育委員会の取組

教育委員会として、改善点や課題点をもとに、次のような事業、取組を行い、児童生徒の学力の向上を図る。

＜学校改革・授業改善＞

・赤磐市研究指定校事業　市内２校
　各校の主体的な研究をサポートし、成果を幼・小・中で共有する。

・各種授業研修会
　授業づくり研修会、ICT授業活用研修会、特別支援教育授業づくり研修会を開催し、教員の指導力向上を図る。

・中学校ブロック研修会
　中学校ブロックごとに児童生徒や学習の状況を共有したり、目指す子ども像を基にして小・中学校で段階的・具体的に共有しながら、その実現に向けて取り組むサポートをする。

・指導訪問
　指導主事が各校へ訪問し、授業についての指導助言を行う。また、市内学校園の教員が相互に参観できるようにすることで、教員の指導力の向上を図る。

＜個に応じた支援＞

・各種人員配置により、落ち着いた学習環境づくり・個に応じた指導を充実させ、学力向上を図る。
　〇非常勤講師、学習支援員、特別支援教育支援員による個別の学習支援
　〇大学生による学習支援ボランティア

＜架け橋プログラム＞

・幼児期から小学校への円滑な接続を目指した「幼・小の架け橋プログラム」の推進に向け、市内教職員を対象とした研修会や情報共有の場を設け、学びを深める機会の充実に取り組む。

＜コミュニティ・スクール＞

・地域と学校が目標や課題を共有しながら協働して子どもたちの成長を支えるコミュニティ・スクール（学校運営協議会）の充実に取り組む。学校運営協議会を活用し、学校・家庭・地域が連携した教育活動の推進を図る。